

令和7年度

事業者のためのごみ減量セミナー等支援業務委託

業務報告書

令和8年3月

アオイ環境株式会社

目次

第1章 業務概要	1
1.1 件名	1
1.2 業務の目的	1
1.3 業務内容	1
第2章 業務実施内容	2
2.1.1 業務実施計画書の作成	2
2.2.1 オンラインセミナーの概要	2
2.2.2 企画検討・登壇者選定	2
2.2.3 告知物作成	3
2.2.4 問い合わせ対応	4
2.2.5 セミナー映像収録・編集	4
2.2.6 セミナー内容	5
2.2.7 実施結果	9
2.2.8 アンケート実施結果	9
2.3.1 施設見学会の概要	11
2.3.2 企画検討・見学施設選定	11
2.3.3 問い合わせ対応	11
2.3.4 当日資料の作成・用意	12
2.3.5 運営支援	13
(1) イベント概要	13
(2) 準備物品	13
(3) 当日工程	14
(4) 実施内容	14
第3章 次年度業務内容への提案	21
3.1 テーマについて	21
3.2 施設見学会の参加者について	21

第1章 業務概要

1.1 件名

事業者のためのごみ減量セミナー等支援業務委託

1.2 業務の目的

港区内の事業者に「紙ごみや生ごみ等の減量・リサイクル」に不可欠な知識やノウハウを提供し、各事業者のリサイクル意識の向上を図るとともに、自発的な“ごみ減量・リサイクル推進の仕組み作り”をサポートすることを目的とし、「オンラインセミナー」及び「施設見学会」を実施した。

1.3 業務内容

- ・ 業務計画書の作成
- ・ オンラインセミナーの実施
- ・ 施設見学会の実施

第2章 業務実施内容

2.1.1 業務実施計画書の作成

業務の実施に当たり、事前に作業内容、業務責任者、人員及び作業の完了予定日等を記載した業務実施計画書を作成し、発注者と協議の上、業務開始前に提出した。

2.2.1 オンラインセミナーの概要

発注者と協議の上、表1のようにオンラインセミナー形式で実施した。

表1. オンラインセミナーの概要

タイトル	事業者のためのごみ減量セミナー		
形式	事前収録した講演/施設見学動画を発注者のホームページ上で一定期間公開		
公開期間	令和7年12月1日(月)9:00 ~ 令和8年1月16日(金)17:00		
公開内容	No.	登壇者	動画タイトル
	①	【専門家による講演】 長岡 文明 氏 (BUN 環境課題研修事務所)	許可不要制度と各種リサイクル法
	②	【事業者の取り組み紹介と施設見学】 一般社団法人日本自動車連盟(JAF)	ごみ減量・分別の取り組み

2.2.2 企画検討・登壇者選定

以下の通り、発注者と打ち合わせを行い、セミナーの企画内容について検討を行った。また、決定した登壇者候補と以下の通り打合せを行い、登壇依頼や趣旨の説明等を行った。

表2. 発注者との打ち合わせ一覧

実施日	内容
令和7年5月28日(水)	<ul style="list-style-type: none">・業務内容の確認・今年度のテーマについて・各動画の内容について・施設見学会について

表3. 登壇者との打ち合わせ一覧

実施日	打合せ先	内容
令和7年9月17日(金)	一般社団法人日本自動車連盟(JAF)	<ul style="list-style-type: none"> ・取り組み内容の確認 ・動画の構成について ・撮影方法の確認 ・施設見学

2.2.3 告知物作成

打ち合わせによって決定した企画、登壇者等について内容を整理したチラシを作成した。なお、チラシには、オンライン形式のセミナーと施設見学会の内容をどちらも記載した。

The image shows two promotional flyers for a waste reduction seminar and facility tour. The left flyer is for an online seminar and a facility tour, both on January 13, 2026. The right flyer is for an online lecture on January 16, 2026, and a facility tour on January 29, 2026. Both flyers include QR codes for registration and contact information.

図1. チラシ

2.2.4 問い合わせ対応

対象事業者へ発注者がセミナーの開催周知をした後、問い合わせの窓口となり、問い合わせに対する対応を行った。問い合わせは1件あった。問い合わせ内容の一覧は以下の通りである。

表4. 問い合わせ一覧

No.	問い合わせ内容
1	長岡先生の講演資料を送ってほしい

2.2.5 セミナー映像収録・編集

講演・取り組み紹介の映像収録の実施日や内容について表5に示す。撮影した動画データは、編集の上、発注者に納品した。

表5. 撮影概要一覧

実施日	撮影対象	内容
令和7年 9月9日(火)	長岡 文明 氏	・講演動画撮影
令和7年 10月20日(月)	一般社団法人 日本自動車連盟(JAF)	・ごみ減量優良事業者の取り組み撮影 ・バックヤード撮影

2.2.6 セミナー内容

(1)【専門家による講演】

動画タイトル：許可不要制度と各種リサイクル法

登壇者：長岡 文明 氏



【発表要旨】

廃棄物処理法における許可不要制度及び各種リサイクル関連法について、プラスチック資源循環促進法、再資源化高度化法、資源有効利用促進法などの関連法令が廃棄物の処理及びリサイクルの推進に大きく関連していることを解説した。

(廃棄物処理法)

- ・無許可行為や無許可業者への委託は、不法投棄と同程度の重い罰則の対象となる。
- ・しかし、リサイクル推進を目的とした各種リサイクル法や関連法令で、一定の条件下であれば、許可が不要となる制度が設けられている。
- ・令和7年4月に廃棄物処理法の省令が改正され、令和9年4月1日より電子マニフェストに再資源に関する項目が追加される。
- ・具体的には、処分業者に対して、「処分方法」、「処分方法ごとの処分量」、「処分後の産業廃棄物又は再生された物の種類及び数量」の報告が義務付けられる。
- ・排出事業者にとって、マニフェストは従来の「適正処理の完了確認」にとどまらず、「再資源化状況を把握・管理するためのツール」としての役割が強化されることになる。

(プラスチック資源循環促進法)

- ・プラスチック資源循環促進法では、ワンウェイプラスチックの使用抑制及び再資源化の取り組みが事実上義務化され、製品の設計・製造段階から廃棄後までを見据えた資源循環の取り組みが

求められている。

- ・この法律では排出抑制、再使用、再生利用といった取り組みを一体的に進めることが制度上位置付けられており、拡大生産者責任の考え方が従来以上に強く打ち出されている。
- ・特に多量排出事業者に対しては、プラスチック使用量及び排出量の把握、削減目標の設定、再資源化の取り組み内容や進捗状況の管理・公表等が求められており、電子マニフェスト等の情報を活用したデータに基づく管理が重要となっている。

(再資源化高度化法)

- ・再資源化高度化法では、処分業者に対して再資源化率の向上と再資源化の実施状況に関する情報の把握・開示が求められている。
- ・廃棄物を適正に処理するだけでなく、再資源化の質及び量の向上を図ることが制度上位置付けられており、処分業者は処理工程の高度化や設備投資、分別精度の向上等を通じた取り組みが必要になる。
- ・また、特定産業廃棄物処分業者については、再資源化の実施状況が十分でない場合、勧告・命令の対象となり、命令に従わない場合には罰則が科されることが規定されている。

(資源有効利用促進法)

- ・資源有効利用促進法では、再生資源の利用義務として特定再利用事業者に再生資源または再生部品を利用することを規定している。その利用が十分でない場合、勧告・命令の対象となる。
- ・また、再資源化を促進するため、認定を受けたメーカー等が行う自主回収や再資源化について、廃棄物処理法の許可を不要とする特例を設けている。

- ・以上の制度改正や法制度の動向から、今後は、単なる法令遵守としての「適正処理」にとどまらず、「再資源化の実施」が強く求められる時代に移行してきている。
- ・そのため、さまざまな規制緩和制度に則った再資源化が必要となる。
- ・再資源化の実施状況を把握・管理し、循環型社会の形成にむけた取り組みを進めていくことが、処理業者と排出事業者の双方に求められている。

(2) 【取り組み紹介と施設見学】

動画タイトル：ごみ減量・分別の取り組み

登壇者：一般社団法人日本自動車連盟(JAF) 関東本部・東京支部 KTビル



【発表要旨】

ごみ減量及び分別方法に関する実践事例として、一般社団法人日本自動車連盟(JAF)関東本部・東京支部 KT ビルの取り組みを紹介するとともに、ごみの分別や保管の様子を施設見学映像にて紹介した。

① 一般社団法人日本自動車連盟(JAF) 関東本部・東京支部 KT ビルの取り組み

- ・コミュニケーションツール(Microsoft Teams)を使用して、ごみの分別方法のマニュアルを全従業員に展開している。不明点があれば、総務担当者に気軽に質問ができる仕組みになっている。
- ・環境目標として「グリーン購入率」、「コピー用紙使用量」、「エネルギー使用量」、「電気使用量」、「廃棄物排出量」を月ごとに算出し、対前年実績1%減になるよう努めている。
- ・はかりを使用してごみの量を計測することで、フロアごとに正確なごみ量を把握し、ごみの分別を可視化している。リサイクル可能なものを特定することで、リサイクルの推進に役立てている。
- ・ごみ箱には品目ごとに捨ててよいものと捨ててはいけないものが明記されている。ごみ箱に捨ててはいけないもの(可燃物や大型の金属製のもの等)については、持込先が案内されている。
- ・紙ごみについては、3段のリサイクルボックスを設置し、それぞれの段に何を入れたら良いかが分かるように掲示をしている。コピー用紙・新聞紙・雑誌類・その他の紙を分別することで、職員の分別意識の向上や、清掃スタッフの負担軽減につながっている。
- ・ごみの保管場所では、ごみの分別表が掲示されており、廃棄物になるものとリサイクルできるものが項目ごとに明確化されている。これにより、正確な分別とリサイクル率の向上につながって

いる。

- ・その他、ごみの保管場所では、職員が廃棄物チェック表を用いて、廃棄物が適切に保管できているか、危険物などが入っていないか、長時間放置されていないか等の分別状況を確認している。

② 施設内のごみ箱やリサイクルボックス、保管場所の紹介

- ・一般社団法人日本自動車連盟(JAF) 関東本部・東京支部 KT ビルでのごみの処理過程は以下の通りである。

【分別】:共有部のごみ箱・リサイクルボックスにて、職員一人ひとりが分別を行う。

【回収】:清掃スタッフが回収し、ごみの保管場所へ運ぶ。

【計量】:品目ごとに計量し、計量結果を記録簿に記録する。

【保管】:危険物が入っていないか、保管量は適切か等、職員が保管状況をチェックしている。

【搬出】:収集運搬業者が定期的に回収に訪れ、適切に搬出される。

- ・今後は、さらなるリサイクル率の向上や環境負荷の軽減に向けて、当ビルのみならず、JAF 全社でごみ減量の取り組みに注力していく。

2.2.7 実施結果

各動画の再生回数を表6に示す。オンラインセミナーは申込制ではないため、同一人が複数回視聴した可能性を考えると、視聴者数は不明であるが、長岡氏の講演「許可不要制度と各種リサイクル法」の再生回数が特に多かった。

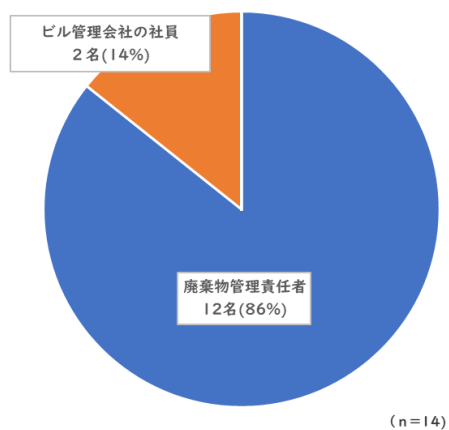
表6. 各動画の再生回数

No.	登壇者	動画タイトル	再生回数
①	【専門家による講演】 長岡 文明 氏	許可不要制度と各種リサイクル法	194回
②	【事業者の取り組み紹介と施設見学】 一般社団法人 日本自動車連盟(JAF)	ごみ減量・分別の取り組み	100回

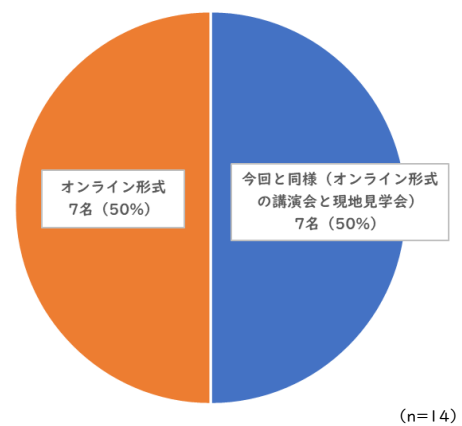
2.2.8 アンケート実施結果

アンケートの回答数は14件であった。以下にそれぞれのアンケート結果を示す。

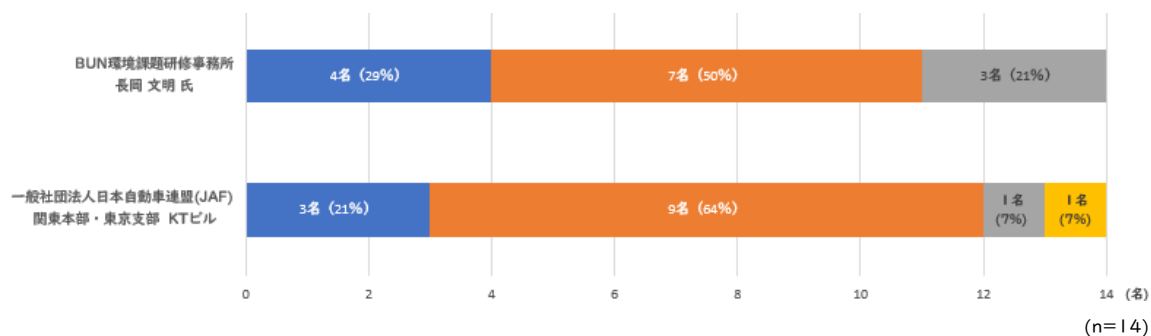
問1 受講者の情報



問2 次年度のセミナー開催形態について

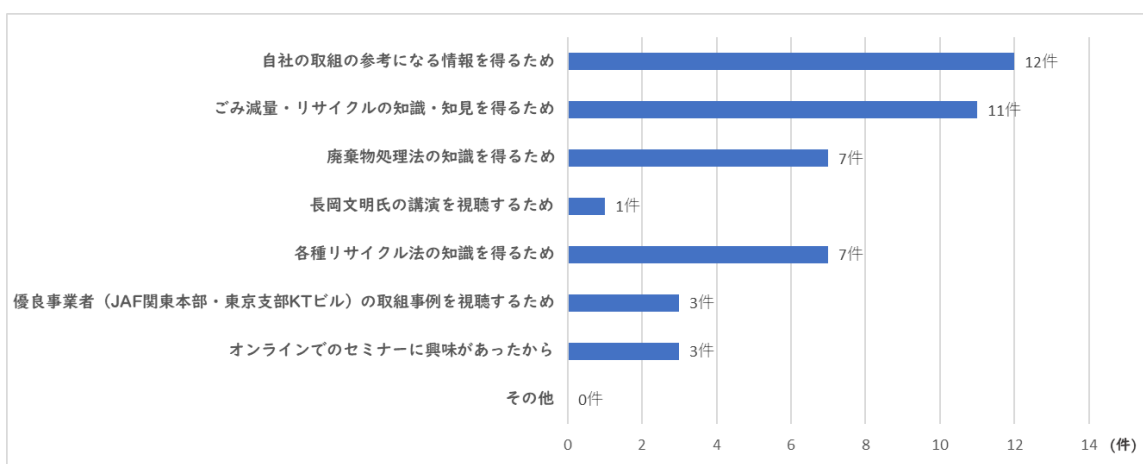


問3 各コンテンツの満足度



	BUN環境課題研修事務所 長岡 文明 氏	一般社団法人日本自動車連盟(JAF) 関東本部・東京支部 KTビル
■ 大変参考になった	4	3
■ 参考になった	7	9
■ どちらともいえない	3	1
■ あまり参考にならなかった	0	1
■ 全く参考にならなかった	0	0

問4 セミナーに参加した理由(複数回答可)



問5 今後取り上げて欲しいテーマ、意見・感想

No.	内 容
1	特にありません
2	現実的なごみの分別

2.3.1 施設見学会の概要

発注者と協議の上、表7のように施設見学会を実施した。

表7. 施設見学会の概要

形式	バスツアーによる施設見学		
実施日	令和8年1月29日(木)		
参加人数	19名		
見学先	①	港清掃工場 (港区港南5-7-1)	・可燃ごみ(焼却)
	②	JR 東日本東京資源循環センター (品川区八潮 3-1-1)	・缶(中間処理) ・びん(中間処理) ・ペットボトル(中間処理) ・プラスチック(中間処理)

2.3.2 企画検討・見学施設選定

発注者と施設見学会の企画内容について電話やメールで検討を行った。また、決定した見学先と電話やメールで調整を行った。

2.3.3 問い合わせ対応

対象事業者へ発注者が施設見学会の開催周知をした後、問い合わせの窓口となり、問い合わせに対する対応を行った。問い合わせの件数は4件で、内容は以下の通りである。

表8. 問い合わせ一覧

No.	問い合わせ内容
1	施設見学会の申込をしたいが、申込ページにアクセスできなかった
2	当落通知メールが埋もれてしまったので、結果を確認したい
3	当日の参加が難しくなった。代理の者の参加は可能か
4	当日のお昼は持参した方がよいか

2.3.4 当日資料の作成・用意

(1) 進行タイムテーブルの作成

施設見学会当日の発注者と受注者の役割分担が明確にわかる進行表や進行台本を作成した。
なお、内容については、発注者と協議を行い決定した。

(2) 集合場所の案内表示作成

施設見学会当日の集合場所における案内表示を作成し、受付場所で掲げた。

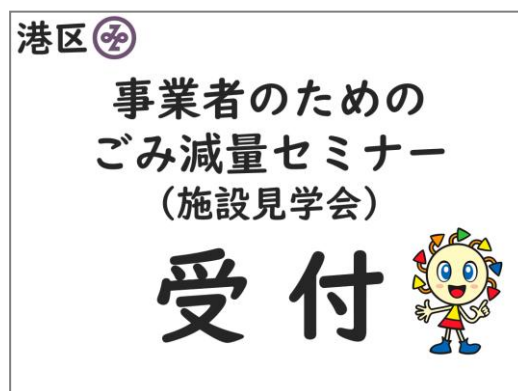


図2. 案内表示

(3) 施設見学先の配付資料

施設見学先の配布資料は施設見学会当日に参加者へ配付した。

(4) アンケートの作成

発注者と協議の上、施設見学用のアンケートを作成し、参加者の受付時に配付した。

(5) その他

当日の運営・進行をスムーズに行うため、運営資料を作成した。また、参加者への開催通知を作成し、抽選で決定した参加者に送付した。

2.3.5 運営支援

(1) イベント概要

- ①日 時:令和 8 年 1 月 29 日(木)9:20~15:50
- ②集合場所:品川駅港南口交番
- ③参加人数:19 名
- ④配 布 物:参加者用ネックストラップ、アンケート、バインダー
- ⑤スタッフ:[港区職員]1名 [アオイ環境(株)]2名

(2) 準備物品

表9. 準備物品

No.	項目	数量
1	見学先 配布資料	27 部
2	進行資料	3 部
3	案内表示 (事業者のためのごみ減量セミナー 受付)	2 部
4	参加者用名札 (港区ごみ減量セミナー) +ストラップ	24 個
5	写真 NG 用ストラップ	10 個
6	マジックペン	1 本
7	アンケート用紙	30 枚
8	アンケート用筆記用具	24 本
9	ごみ袋	3 枚
10	ウェットティッシュ	1 個
11	レーザーポインター	1 台
12	PC	1 台
13	デジカメ	1 台
14	事務局用名札	2 個
15	養生テープ	1 個
16	マスク	10 枚
17	バインダー	24 枚
18	ICレコーダー	1 台
19	救急セット	1 セット

(3) 当日工程

表 10. 当日工程

時間	所要	内容
9:00	20分	スタッフ集合、受付準備
9:20	25分	受付、バス乗車位置まで移動
9:45		
9:55		バス出発
10:10	90分	港清掃工場 見学
11:40		
12:10	60分	昼食休憩 (ダイバーシティ東京プラザ)
13:10		
13:30	100分	JR 東日本東京資源循環センター 見学
15:10		
15:50		参加者解散 (品川駅港南口)
16:00		片付け、撤収

(4) 実施内容

港区内の事業用大規模建築物(1,000 m³以上)の実務担当者及び廃棄物管理責任者等を対象に、ごみの減量化やリサイクルの推進につながるよう、実際に廃棄物の中間処理の過程を見学する施設見学会を実施した。見学施設の受入可能人数の都合上、定員は24名とした。応募者多数のため、抽選で参加者を決定したが、その後、2名から事前の欠席連絡があったため、2名を繰り上げ当選とした。繰り上げ当選後に体調不良等で5名の欠席があり、当日は19名が参加した。

当日は、品川駅港南口交番前に集合し、受付終了後、バスの乗車場所である東京都中央卸売市場食肉市場付近に移動し、出発した。

はじめに、可燃ごみの焼却を行っている港清掃工場を訪問した。会議室で、施設の概要や焼却の過程について説明を受けた後、2班に分かれて施設見学を行った。運び込まれた廃棄物が、計量され、ごみバンカに投入された後、ごみクレーンで、ごみをかき混ぜ均一化しているという説明を受けた。その後、焼却炉や灰バンカ、発電設備など、中間処理の過程に沿って、施設内を見学した。参加者から、「なぜ焼却炉の温度が高くなりすぎてはいけないのか」という質問があり、「炉の耐久温度として適正ではないため、温度が高くなりすぎないように調整している」という回答が得ら

れた。また、アンケートでは、「発電所としても機能していることを知った」という回答もあり、中間処理だけではなく、中間処理後の資源活用や最終処分についても関心が高いことが伺えた。



図3. 説明を受ける様子



図4. 施設見学の様子

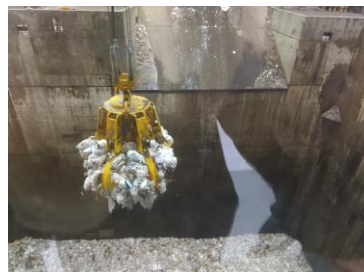


図5. ごみバンクの様子

港清掃工場の見学後は、バスで青海第二臨時駐車場に移動し、各自で昼食休憩とした。午後は、JR東日本東京資源循環センターを訪問し、施設の概要や、各品目の中間処理の過程に関する説明を受けた。列車から排出される廃棄物が多いという施設の特徴があり、分別されていない混在ごみが多く搬入されることから、その分別方法に関して説明があった。説明後は、缶・ビン・ペットボトルの中間処理を行うB棟、列車から排出される混在ごみなどの中間処理を行うA棟、一般家庭より排出される廃プラスチックの中間処理を行うC棟を見学した。参加者からは、事業所内でのペットボトル・キャップ・ラベルの分別方法や汚れたプラスチックごみについての質問が挙げられ、自社での分別について振り返る機会となった。また、アンケートでは「駅・列車のプラごみと一般家庭からのプラごみの色の違い、においの違いに驚いた」、「実際に手作業で分別をされている方や品質の悪い納入された資源ゴミを見ると、家庭や職場の分別意識の向上が必要と感じました」との意見が寄せられた。



図6. 説明を受ける様子

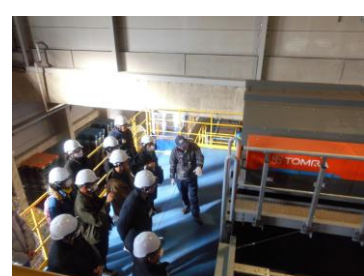


図7. 施設見学の様子



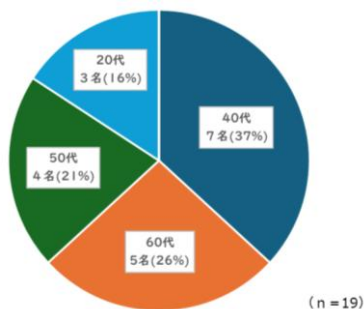
図8. 中間処理された資源

JR東日本東京資源循環センターの見学後は、バスで品川駅港南口付近に戻り、アンケートの記入が終了した参加者から解散した。

2.3.6 アンケート実施結果

施設見学会に参加した19名全員から回答が得られた。以下にアンケート結果を示す。

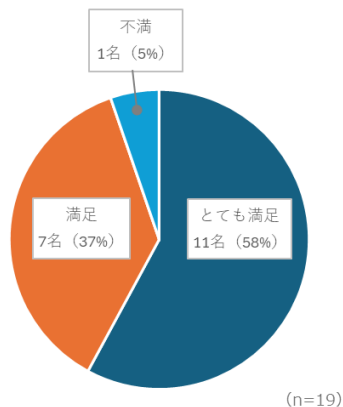
問1 参加者の年代



問2 応募理由（自由記述）

No.	内容
1	書簡で御案内下さいました。所属企業の庶務担当で、環境関連の提出書類を作成・提出させていただいております。
2	自社ビルの廃棄物管理者になったため
3	廃棄物管理責任者として、ゴミの処理過程を学ぶため
4	会社からの指示
5	募集の手紙で興味を持ったため
6	リサイクルに興味があったため
7	5年以上廃棄物の回収を担当している。実際に清掃工場での可燃ごみの焼却現場を見てみたかった。
8	会社の総務部で廃棄物処理を含めた業務を担当しているため
9	廃棄物管理責任者となったため排出されるゴミについてより詳しく学びたかったため。
10	施設見学、普段、見学出来ない場所であり、どのような流れで処理されるか見てみたいと思った。事務所のゴミの担当なので、いろいろと知識を高めたいと思った。ゴミ処理施設は生活に必要なところなのでどんなところか知りたかった。
11	今年度初めて廃棄物管理責任者になったため。
12	環境について担当しており、ゴミの処理方法について知りたかったため
13	ビルマネジメント業務に従事しております。廃棄物減量と再利用推進に対する認識と理解を深め役立てるべく、施設見学会に応募いたしました。
14	社内で案内のチラシを見て、応募を決めました。
15	先日職場に清掃事務所の方の査察が入り、自身の勉強不足を感じたため。
16	清掃工場、リサイクルセンターでの処理方法に興味があったため
17	業務で廃棄物処理に関係しているため。
18	2026年8月に仮移転をひかえているため
19	ハイキ物処理の流れを実際の現場を見て知りたかったため。

問3-1港清掃工場の見学の感想

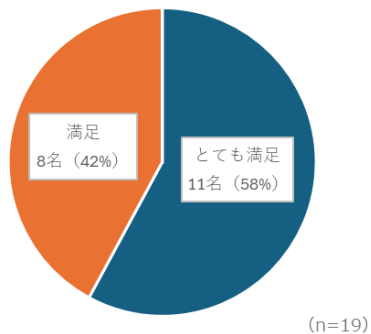


問3-2 感想ごとの回答理由（自由記述）

No.	感想	理由
1	とても満足	係の方の説明が丁寧かつ明瞭で、ゴミの流れ・処分の流れ・その後の流れがよく分かったため
2	とても満足	可燃ゴミ中間処理の仕組みがよく分かった。セメント資源も初めて知ることができた。
3	とても満足	ごみバンカでのごみクレーンの作業がダイナミックで印象に残った。かき混ぜて細かくしていると知って驚いた。ごみのおいが全くせず、くさくなかったのに驚いた。(午後の見学で振り返ってみると)
4	とても満足	おそらく排出される中で一番多い可燃ゴミについて事業所から排出されどのように処分されるのか学べた。
5	とても満足	可燃ゴミの処理の流れが詳しく知ることができたため
6	とても満足	港清掃工場の役割・施設概要について丁寧に説明いただき理解できました。ありがとうございました。(限られた時間でしたのでできればもう少し施設内見学をしたかったです。)
7	とても満足	工場内で説明を聞くだけでなく、実際に何が行われているかを見ることができ、おもしろいと感じたから。
8	とても満足	とてもいい案内いただいたため。自身や職場の排出したゴミの行き先がよく分かりました。
9	とても満足	普段見ることのない処理方法の現場を確認出来たため
10	とても満足	行政の清掃工場は見学したことが無かったため、大変参考になった。
11	とても満足	説明がとてもわかりやすく、リアルな現場をみることで清掃工場の役割がよくわかった。
12	満足	流れが理解できたのでよかった。
13	満足	普段知らない情報を知ることが出来た
14	満足	清掃工場の見学がはじめて、ゴミの種類で持ち込み先の違いや発電所としても機能していることを知ったから
15	満足	可燃ゴミの処理の流れが理解できた

No.	感想	理由
16	満足	可燃ゴミ処理場だけの見学でしたがとてもきれいなところでした。他の処理施設も見学してみたい。事業系のゴミ収集車と一般家庭ゴミ収集車の頭の色が事業系が青、家庭が白とはじめて知りました。ありがとうございました。
17	満足	実際にゴミの処理を見たことがなかったので、見ることでよかったです。
18	満足	各処理施設の役割等確認することができた。炉の内部は映像でのみだったのが残念
19	不満	二手に別れて実地見学した際、担当者が新人とのことで質問に答えられない部分が多数あったため。

問4-1 JR 東日本東京資源循環センターの見学の感想

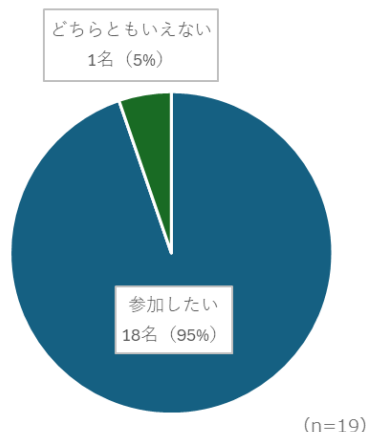


問4-2 感想ごとの回答理由（自由記述）

No.	感想	理由
1	とても満足	所長様により主にどこから持ちこまれるごみであるか、この施設はどのような機能を担うのかを丁寧にご説明くださったため
2	とても満足	不燃ゴミは、圧縮して次のリサイクルへ行くことがよく理解できた。
3	とても満足	駅・列車のプラごみと一般家庭からのプラごみの色の違い、においの違いに驚いた。少なくとも家庭では高度なりサイクルへ回せるよう容器は洗って出すのは努めたい。事業系では弁当ガラと汚れていないプラごみをきちんと分けるよう努めたい。
4	とても満足	それぞれの棟の説明も詳しく、リサイクル素材の実物や回収されたプラゴミの分別作業を見学でき、自身の生活上での3R への意識を新たにした。
5	とても満足	最新の分別機器や家庭ゴミと事業者ゴミの違いなど実際に見れたのが良かった。
6	とても満足	びん・かん・ペットボトルがどのように分別されているかを詳しく知ることができたため

No.	感想	理由
7	とても満足	JR 東日本ならではの資源循環への取り組みがわかりました。ありがとうございました。C 棟(家庭から出る廃プラ)に持ち込まれた廃棄物並びに分別作業に携わっている方の就業が印象的であり、事前分別の重要性を再認識させていただきました。
8	とても満足	区内で回収されたゴミと、駅で回収されたゴミの違いなど、目で見て感じ取る場があり、体感が出来たから。
9	とても満足	資源ゴミの実物や、新旧の設備を見ることができ、ご説明も非常に分かりやすかったため。作業員の方がにっこりと挨拶してくださったのが印象的でした。
10	とても満足	資料、現場説明が分かり易かったため
11	とても満足	機械化が進んでいるとはいえ、やはり人の手で分別されていることがよくわかって、分別意識が高まった
12	満足	どのように分別してリサイクルにまわしているかがよくわかった。
13	満足	インカムも使用して、現場を案内してもらった。自社関連のみならず自治体関連も対応していることがすごいと思った
14	満足	分別の重要性など勉強になった。駅等でも細かく分別できるようになれば良いと思った
15	満足	ペットボトル・プラゴミのリサイクルの理解が深まった。職場で共有したいと思う
16	満足	アルミ・スチール・ペットボトルをふりわける機械が、夏に比べ約半分くらいの為、稼働していなかったのが残念でした。
17	満足	分別方法が見れてよかった。夏にきて B 棟の機械が稼働してる所をみたい。
18	満足	中間処理方法を理解することができた
19	満足	最新のペットボトル分別の操業の様子が冬期で少量のため AM で終了してしまい、見るができなかった。

問5 今後の施設見学会への参加希望



問6 意見・感想・今後見学したい施設（自由記述）

No.	内容
1	2年連続で参加させていただきました。今年度で退職です。ありがとうございました。
2	ゴミの分別を1人1人がすることで、ゴミ処理施設で働く人の手間がはぶけることの重要性を理解できました。
3	不燃ごみや粗大ごみの処理施設にも機会があれば行ってみたい。又、古い除湿器がフロン回収対象機器の場合があり、廃棄に困っている。フロンの廃棄の工程に関心がある。
4	可能であれば、ごみの最終処分場の見学
5	今後も排出ゴミについて分別や削減に努めてまいります。
6	JR 東日本東京資源循環センターさんの発泡スチロールの圧縮された板状のものは、何になるのか、聞いてみたかった。ごみの分別をまわりの皆にも協力してもらい減らしたいと思います
7	今日も貴重な港区さんの施設見学に参加でき光栄です。ありがとうございました。今日の見学会を踏まえ、今後も引き続き廃棄物減量と分別・再利用への取り組み(ビル事業者への啓蒙展開)に役立たせて頂きます。
8	パンフレットの中に目黒のゴミセンターが R5 年にできたとかかれていた。最新の施設にはどのようなものがあるのか、どのような違いがあるのかを知りたい。
9	実際に手作業で分別をされている方や品質の悪い納入された資源ゴミを見ると、家庭や職場の分別意識の向上が必要と感じました。施設の職員の方が、排出元での分別の向上にはあまり期待ができないとおっしゃっていたのは、とても悲しいことだと思いました。
10	ご案内ありがとうございました。最終処分場、リサイクル施設を見学したいです。
11	生ごみリサイクルに興味があります。
12	じっくり見学させていただくことができとても勉強になりました。ありがとうございました。

第3章 次年度業務内容への提案

3.1 テーマについて

【オンラインセミナー】

アンケート結果から、オンラインセミナーを視聴した理由として、「自社の取組の参考にするため」や「ごみ減量・リサイクルの知識・知見を得るため」との回答が多かった。そのため、より実践的なごみ減量・リサイクル方法を紹介することを求められている可能性もあるが、アンケートの回答件数が少ないため、一概には言えない。仮に実施する場合は具体的なごみ減量・リサイクルの方法を示す講演や、区内事業者の取り組み事例を複数紹介するなど、廃棄物管理を業務としている方が日常業務において、すぐに活用することができる内容を取り上げることが考えられる。

【施設見学会】

今回の施設見学会では、中間処理に関する施設見学を実施し、事業者のごみ減量・リサイクル推進・分別の重要性が実感できるような内容とした。次年度以降はアンケートの結果から、以下のテーマが考えられる。

〈テーマ候補〉

- ・自社における分別や排出方法が適切か再確認してもらうため、品目ごとの処理施設を見学する
- ・フロン類を取り扱う処理施設を見学し、適正な廃棄方法や自社における管理方法を学ぶ
- ・リサイクル方法が異なる食品リサイクル施設を複数見学し、自社で取り組むことが可能な食品リサイクル手法を学ぶ
- ・最終処分場を見学し、ごみ減量やリサイクルの重要性について理解を深める

3.2 施設見学会の参加者について

施設見学会は施設の受入可能人数の都合上、定員を24名としたが、定員を大きく超える46名から応募があったため、参加者を抽選で決定した。当選者については、やむを得ず欠席する場合は事前に事務局に連絡をするように依頼した。その後、2名から欠席の連絡があったため、繰り上げ当選を実施し、2名を繰り上げ当選とした。

繰り上げ当選以降は、前日に体調不良等によるキャンセルはあったものの、当日の無断欠席者はいなかったため、参加枠を有効に活用することができたと思われる。次年度以降も、限られた定員の中で、より多くの参加者に確実に参加してもらえるよう欠席時の規定の設定や繰り上げ当選を行うことが望ましい。

また、施設見学会の定員を増やして実施することも考えられるが、見学先の施設や移動するためのバスの都合もあるため、あまり現実的ではない。そのため、施設見学会に参加できなかった方のために施設見学会の内容を撮影し、後日公開することで施設見学の様子を体験してもらうこ

とも考えられる。

なお、今回の抽選結果で、2年連続で参加された方がいた。申込者に対して公平に参加する機会を提供することは重要であるが、その一方で、より多くの方に参加機会を提供することも大切である。そのため、応募者が定員を超えた場合に、一律で抽選ではなく、以下のようなルールを設けて申込フォームやチラシ等に明文化することも考えられる。

【応募者が定員を超えた場合のルール設定(案)】

- ・初参加者を優先する
- ・前年度の落選者を優先する
- ・同一事業者の参加人数を制限する